

井相田C遺跡6

— 井相田 C 遺跡第 7 次調査報告 —

福岡市埋蔵文化財調査報告書 975集

2008

福岡市教育委員会

井相田C遺跡6

— 井相田 C 遺跡第 7 次調査報告 —

福岡市埋蔵文化財調査報告書 975集



遺跡略号 ISC-7

調査番号 0608

2008

福岡市教育委員会

序

玄界灘に面し古くから大陸との文化交流の玄関口であった福岡市には、豊かな自然と文化が残されています。の中でも博多区は大陸との交流で古くから栄え、遺跡も多く存在しています。これらを保護し、未来へと伝えていくのは行政に課せられた責務であります。しかし、近年の著しい都市化による市街地の拡大により、その一部が急速に失われつつあることもまた事実です。福岡市教育委員会は開発によってやむを得ず失われていく遺跡について、事前の発掘調査を行い、記録の保存に努めています。

今回報告する井相田C遺跡の発掘調査報告書は、共同住宅建築に伴う調査成果についての記録です。この調査では弥生時代と古代から中世にかけての集落を確認しました。本書が文化財保護への理解と認識を深める一助となり、また研究資料として活用頂ければ幸いに存じます。最後に発掘調査から報告書の刊行に至るまで、多くの方々のご理解とご協力を賜りましたことに対して心から謝意を表する次第です。

2008年3月31日

福岡市教育委員会
教育長 山田 裕嗣

例　言

□本報告書は博多区井相田2丁目11番3の共同住宅建設に伴って2006年4月17日から5月31日にかけて発掘調査を行った井相田C遺跡第7次調査の報告書である。

□本書に収録した発掘調査は福岡市教育委員会の屋山洋が担当した。

□遺構実測は大塚正樹と屋山が、遺構の写真撮影と遺物実測・写真撮影は屋山が担当した。

□細石刃核の記述と遺物実測は吉留秀敏（福岡市教育委員会）による。

□本書で用いた方位は磁北で、座標北より 6° 、真北より $6^{\circ} 18'$ 西偏する。

□遺構・遺物番号はそれぞれ通し番号とした。

□本書に関わる図面・写真・遺物など一切の資料は福岡市立埋蔵文化財センターに収蔵・保管される予定である。

遺跡調査番号	0608	遺跡略号	I S C - 7	分布地図番号	麦野 12
調査地地番	福岡市博多区井相田2丁目11番3				
開発面積	3166m ²	調査面積	438.9m ²	調査原因	共同住宅建設
調査期間	2006年4月17日～2006年5月31日	担当者	屋山 洋		

本文目次

I	はじめに	1
II	調査の記録	3
1	調査の概要	3
2	弥生時代の遺構と遺物	4
1)	溝	4
2)	柱穴状遺構	4
3	古代の遺構と遺物	5
1)	土坑	5
2)	掘立柱建物	10
4	その他の遺構と遺物	11
5	小結	12
6	井相田C遺跡7次調査出土の細石刃核について（吉留秀敏）	13

挿図目次

第1図	周辺遺跡分布図(1/25,000)	1
第2図	調査区位置図(1/4,000)	2
第3図	調査区周辺図(1/500)	2
第4図	調査区全体図(1/100)	折り込み
第5図	SD0078土層・出土遺物実測図(1/20・1/3)	4
第6図	SK0079遺構・出土遺物実測図(1/40・1/3)	5
第7図	土坑遺構・遺物実測図(SK0051 1/30, SK0071 1/20, 遺物 1/3)	6
第8図	掘立柱建物遺構実測図(1/50)	7
第9図	掘立柱建物遺構・遺物実測図(1/50・1/3)	8
第10図	その他の出土遺物(1/3)	9
第11図	細石刃核実測図(1/1)	13
表1	遺構一覧	14

図版目次

図版1	1. 調査区全景(北西から)	2. 調査区中央部(西から)	15
図版2	1. 調査区南半部(南から)	2. 遺構検出状況(北西から)	16
図版3	1. SD0078(西から)	2. SD0078土層(西から)	17
図版4	1. SD0078遺物出土状況(西から)	2. SK0051(南から)	18
図版5	1. SK0079土層(東から)	2. SK0079土層部分(東から)	19
図版6	1. SK0002(西から)	2. 拡張区調査風景(西から)	20
図版7	1. 調査面下堆積状況	2. 遺物写真	21

I. はじめに

1 調査に至る経過

2006年2月24日付けで新栄住宅株式会社から福岡市教育委員会埋蔵文化財課に福岡市博多区井相田2丁目11番3の共同住宅建築に伴う埋蔵文化財事前調査申請書(17-2-1132)が提出された。申請地は周知の埋蔵文化財である井相田C遺跡内に位置しており、確認調査が必要であるが、当地は以前確認調査を行っており、(申請番号17-2-659)現地表面から約2mの深さで遺構が確認されていた。その確認調査の結果と建物の基礎設計を照らし合わせたところ、計画されている建物基礎では遺跡の破壊が避けられないため、建物建設に先だって発掘調査を行い記録保存を図ることで両者の合意が成立した。以上の協議を受けて2006年4月17日から5月31日までの期間で調査を行った。調査期間中は新栄住宅側からユニットハウスやトイレ、水道等の協力を得た。記して御協力を感謝したい。

2 調査の組織

調査主体 教育委員会埋蔵文化財第1課

埋蔵文化財第1課課長 山口譲治

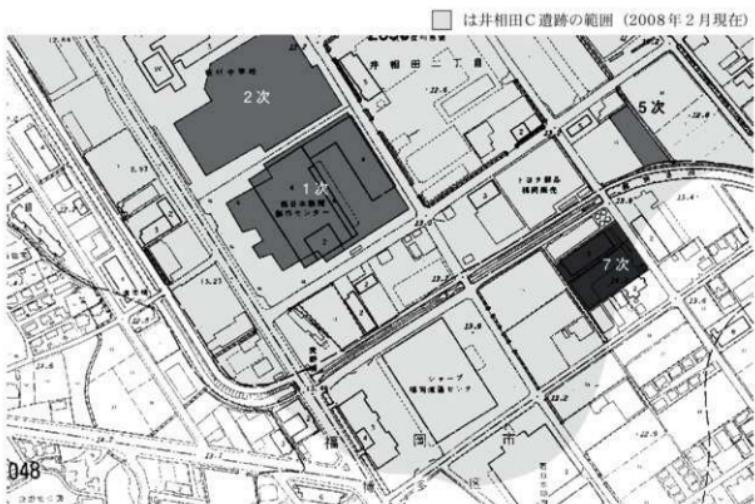
調査係長(前)山崎龍雄(現)米倉秀紀

調査庶務 文化財整備課整備係 鈴木由喜

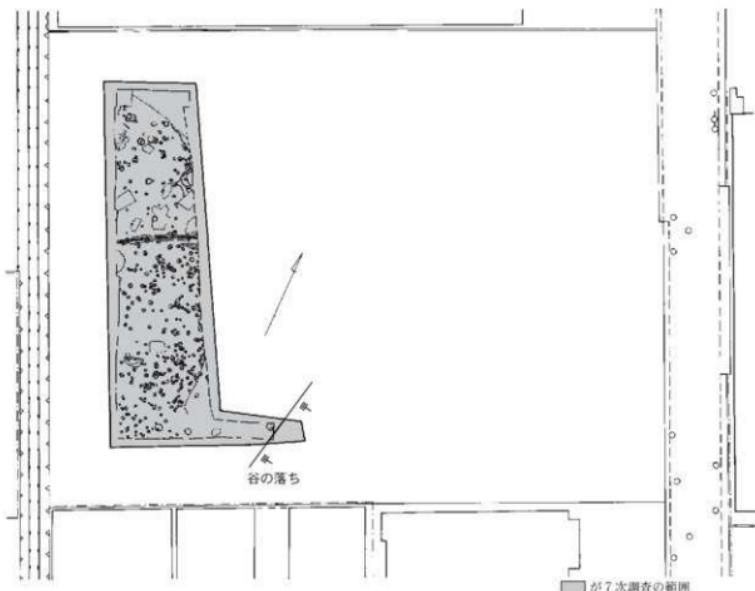


- | | | | | |
|-----------|-----------|------------|----------|-------------|
| 1. 井相田C遺跡 | 2. 仲島遺跡 | 3. 麦野A遺跡 | 4. 麦野B遺跡 | 5. 麦野C遺跡 |
| 7. 雑餉隈遺跡 | 8. 三筑遺跡 | 9. 笹原遺跡 | 10. 高畠遺跡 | 11. 諸岡A遺跡 |
| 12. 諸岡B遺跡 | 13. 板付遺跡 | 14. 那珂君体遺跡 | 15. 那珂遺跡 | 18. 五十川高木遺跡 |
| 19. 井尻B遺跡 | 21. 稲久遺跡群 | | | |

第1図 周辺遺跡分布図 (1/25,000)



第2図 調査区位置図 (1/4,000)



第3図 調査区周辺図 (1/500)



第4図 調査区全体図 (1/100)

調査担当 埋蔵文化財第1課調査係 屋山 洋
作業員 岩本三重子 岡部安正 栗野孝子 堤 正子 中島道夫 大塚正樹 牧尾忠博 中村健三
前田佳代 石川洋子 北條こず江 濱地静子
整理作業 大石加代子 熊谷幸重 中村麻依子 藤野洋子 村上恵子

3 遺跡の立地と環境

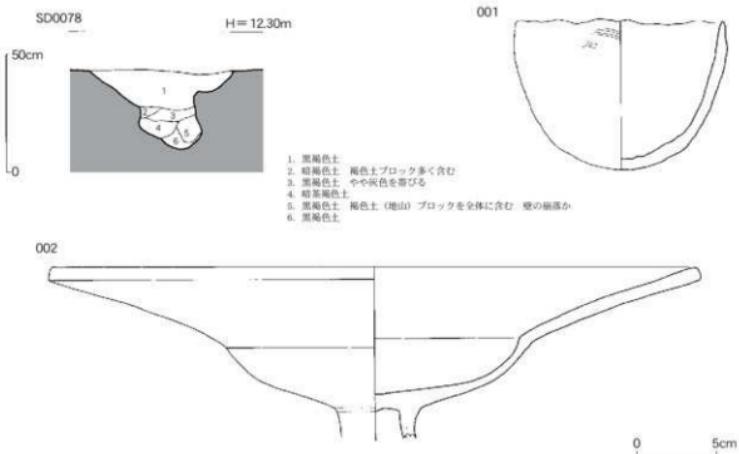
井相田遺跡群は福岡平野の中央を博多湾に向かって流れる御笠川の左岸に位置する。周囲は御笠川によって形成された沖積地で、その間に点在する微高地に遺跡が立地するが、現在では埋め立てられて平坦地となっている。井相田遺跡群の谷を挟んだ西側の台地上には麦野遺跡群や南八幡遺跡、板付遺跡などが分布している。これらの遺跡ではナイフ型石器や細石刃などの旧石器が出土しており、福岡市内でも最も旧石器時代の遺物が集中して出土する地域のひとつである。弥生時代になると初期の水田と環濠集落が確認された板付遺跡を中心に遺構が激増し、那珂川右岸に沿う比恵遺跡群、那珂遺跡、井尻遺跡群は奴国の大拠点集落となる。井相田遺跡群が分布する微高地は開析谷や自然流路によって分断され、それぞれの微高地の遺跡を南から井相田B遺跡、A遺跡、C遺跡、D遺跡としている。井相田A遺跡とB遺跡のすぐ東側は大野城市域となる。井相田AとC遺跡間は那珂古川沿いの旧河道により分断される。周辺の微高地地形については井相田C遺跡第3次調査報告書(『井相田C遺跡 5』福岡市埋蔵文化財調査報告書第658集)に詳しい。7次調査地点は1996年に作成された遺跡分布地図(『東部I』)ではA・C遺跡間に自然流路上にあたるとされていたが、その後の調査で遺構の存在が判明した。当調査区は南端で谷の落ち際を確認しており、井相田C遺跡の南端に位置する。

井相田遺跡群のこれまでの調査では1次調査で台形石器や三稜尖頭器などの旧石器の遺物が出土している。古代になると1次・2次調査では微高地で8世紀を中心とする掘立柱建物の建物群の他に烟の畝状遺構が、西側の沖積地では水田が確認されている。中世には畑化と水田化が進むと思われ、集落等の遺構はほとんど見られなくなる。

II. 調査の記録

1 調査の概要

本調査地点の敷地面積は3166m²を測るが、敷地東側の大半は駐車場で掘下げを行わないため、調査対象地は建物が計画されている西側から南側中央部にかけてのL字型を呈す。建物基礎部分は約708m²で、このうち建物南東端部分の試掘トレンチでは旧河川となっており遺構が確認されなかったため、建物南半を調査対象から外して、北側240mのみを調査対象とした。しかし表土剥ぎを行ったところ、当初の調査範囲では谷の落ちに達せず、集落が南側に続いていることからそのまま南側へ調査区を拡張した。面積が380m²前後になった所で施土が置けなくなったため、残りは部分的に打って返す事とし、表土を剥いた部分の調査を開始した。現表土から遺構検出面までの深さは200cmを測る。遺構は沖積地の厚い粗砂の上に厚さ60cmほど堆積したシルトの上面で検出した。シルトは下層が黄褐色で上層が暗茶褐色を呈す。遺構埋土は黒褐色である。最初、この遺構検出面のシルトが堆積した時期は、出土する遺物が古くても弥生時代後期であることから、それよりやや遡る程度と考えていたが、その後SP0034から細石刃の石核が出土したため、古くなる可能性がでてきた。細石刃に関しては弥生時代以降の調査が終わってから調査区全体に2mグリッドを設定して掘り下げたが、旧石器関連の遺物は出土しなかった。その後、調査区を南東側に拡張するための試掘を行ったところ、最初の調査予定区南端から東に15mの地点で谷の落ちを確認したため、重機で拡張して調査を行った。最終的な調査面積は438.9m²である。



第5図 SD0078土層・出土遺物実測図 (1/20 · 1/3)

2 弥生時代の遺構と遺物

1) 溝

SD0078(第5図)調査区の中央で検出した。わずかに弧を描いており幅50~80cm、深さ40cmを測る。方位はN-60°-Eを測る。断面は検出面から15cmは逆台形を呈すが、それから下の壁は垂直に掘り込まれている。覆土からは水が流れていた痕跡は無く、全体的に壁の崩落により埋没している。遺物は少なく2~6層では1点の破片も出土していない。1層の上層から弥生時代後期の高杯の坏部と鉢が出土した。出土状況(図版4-1)では溝の上層に水平に据え置かれた高杯の坏部があり、その坏部内に割れた鉢の破片を集め置いたのが見える。鉢の底部と坏内部の一部は被熱により赤色を呈している。出土遺物(001・002)。001は鉢である。口径13.1cm、器高9.6cmを測る。外面の口縁から胸部は灰褐色を呈し、底部は両面とも被熱し赤色を呈す。胎土は微小な白色砂を少量含む。整形は粗く全面に凹凸が残る。調整は不明瞭だが最初横ハケを施し、その後縦方向のナデでハケ目を消している。外底部に被熱による剥離が見られる。002は高杯の坏部である。復元口径40.5cmを測る。内面の口縁端は橙黄色を呈するが、口縁と坏部の間の段は被熱のため赤色化している。外面は赤橙色を呈す。胎土は精良で微小な白色砂を多く含む。整形は丁寧。焼成はやや軟質で、調整は内面が放射状のミガキ、外面は口縁部が横方向のハケ、坏部には放射状のミガキを施す。弥生時代後期後半である。

2) 柱穴状遺構

遺構一覧表からも判るように弥生時代と確定できる柱穴はほとんどない。しかし時期不明の遺構の中には弥生時代の遺構がある可能性が考えられる。またSD0078に切られる柱穴もあり、溝より古くなる建物があったのは確実であるが、時代が判明する遺物は全く出土していない。

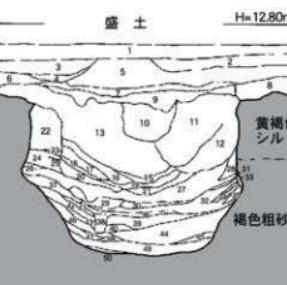
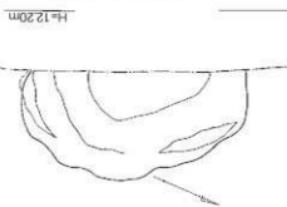
3 古代の遺構と遺物

1) 土坑

SK0079 (第6図) 調査区中央の西縁で検出した。遺構の西側半分が調査区外に延びる。遺構平面は円形もしくは隅丸方形を呈す。南北径1.9m、遺構検出面からの深さ126cmを測る。断面は検出面から70cmまでは垂直な掘り込みで、それから下は逆台形を呈す。土層は薄いレンズ状の堆積で黒色土と黄白色シルトが互層になっており、壁の崩落（黄白色シルト）と上からの土壤の落ち込み（黒色土）が繰り返されている。土層から第10層（柱穴）、第11・12層（土坑か）、第13～21層（土坑）、第22～50層（井戸もしくは貯蔵穴か）の4つの遺構が重複している。出土遺物の003は黒色土器碗の底部である。外面は明橙色を呈し、内面は黒色で丁寧なミガキを施す。胎土は精良で白色砂をわずかに含む。焼成はやや軟質である。底部はヘラ切り後押し出しで丸みを出し、逆台形の高台を貼り付けている。高台から上は横ナデを施す。時期は古代と考えられ、遺構の最上層から出土した。前述したように上層部では3つの遺構が切り合っており、この遺物はこれら後世の遺構に伴う可能性が高い。27層から下では遺物は出土しておらず、当初の掘込みの時期は不明である。井戸とすると2次調査で出土した古代の井戸も径が2m前後と似ているものの、2次では井筒の痕跡が遺存しているのにたいし、当遺構では井筒が存在した痕跡がなく素掘りである。また、本調査区内の古代の遺構からはある程度の量の遺物が出土しているのに対し、弥生時代の溝0078ではほとんど遺物が出土しないことなどから、22層以下の掘り込みは弥生時代まで遡る可能性もあると考えている。

SK0051 (第7図) 調査区南側で検出した。平面楕円形を呈し、長径173cm、短径92cm、遺構検出面からの深さ37cmを測る。断面は不整形な箱形で土層によると中央に後世の

SK0079

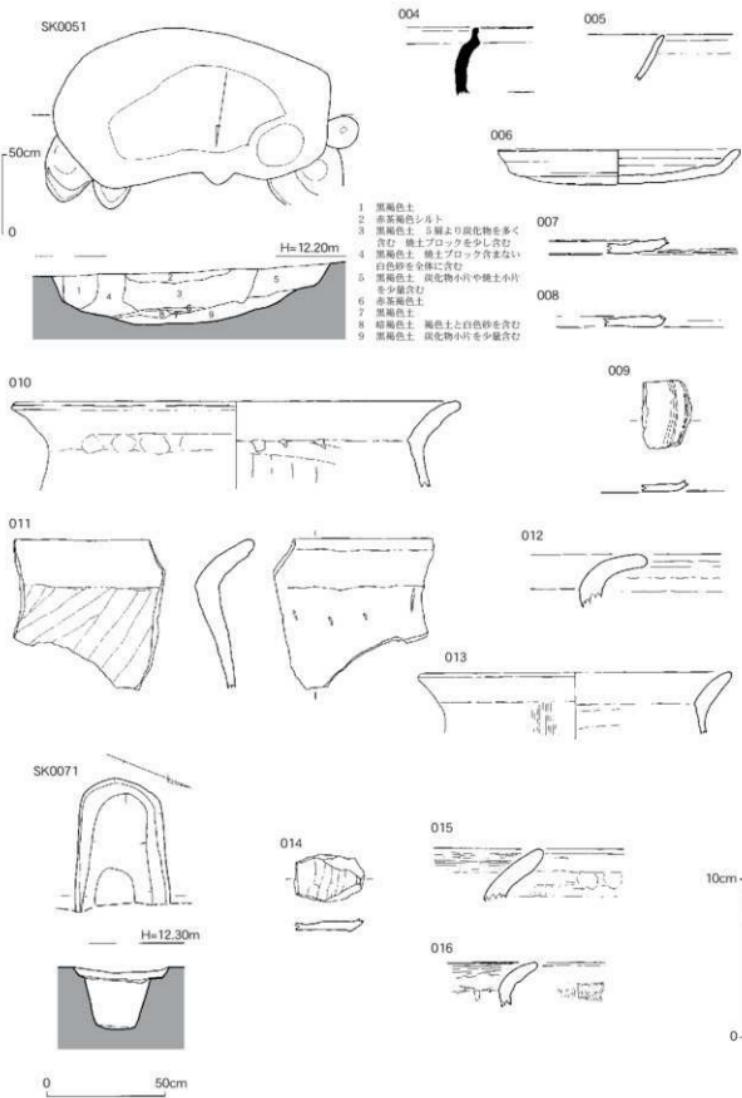


- | | | |
|-------------------------|---------------------|----------------------|
| 1 黒色土 現代耕作土 | 18 黒褐色土 | 36 黒色土 黄白色小ブロックを少々含む |
| 2 枕頭白色土 黒黄褐色土ブロック多く含む | 19 黒色土 剥離物小片を層理状に含む | 37 黄褐色土 |
| 3 黑褐色土 | 20 黑褐色土 しまり弱い | 38 黑色土 |
| 4 黑褐色土 | 21 黑褐色土 | 39 黑色土 36層より土色は明るい |
| 5 黑黄褐色シルト 黒土 | 22 黑褐色土 | 40 黑色土 しまり弱い |
| 6 黑褐色土 | 23 黑褐色土 | 41 黑色土 黄褐色土小ブロック |
| 7 黑黄褐色シルト | 24 黑褐色土 白色砂多く含む | 42 黄褐色土 黑褐色土を層状に含む |
| 8 黑褐色土 | 25 線状黒褐色土 | 43 黑色土 |
| 9 黑褐色土 剥離物小片を少量含む | 26 黑褐色土 | 44 黑色土 砂と木末(加工痕有) |
| 10 黑褐色土 やや赤みを帯びる | 27 黑褐色土 21層より明るい | 45 黄褐色シルト |
| 11 黑褐色土 黃褐色土のブロック含む | 28 黑黄褐色土ブロック | 46 明褐色細砂 |
| 12 黑褐色土 しまり弱い | 29 黑色土 黑褐色土ブロック | 47 黑褐色土 しまり弱い |
| 13 黑褐色土 しまりやや弱い | 30 黑色土 黄褐色土ブロック | 48 黄褐色土 しまり弱い |
| 14 黑褐色土 | 31 黑褐色土 | 49 黑褐色砂 中央部グライ化 |
| 15 黑褐色土 屋白色土ブロックを層理状に含む | 32 黑色土 しまり弱い | 50 黄褐色砂 略 |
| 16 黑色土 屋白色土と屋白色土を層状に含む | 33 線状黒褐色土 | |
| 17 黑褐色土 剥離物小片を含む | 34 黑色土 | |
| | 35 黑褐色土 | |
| | 36 黄褐色土 | |

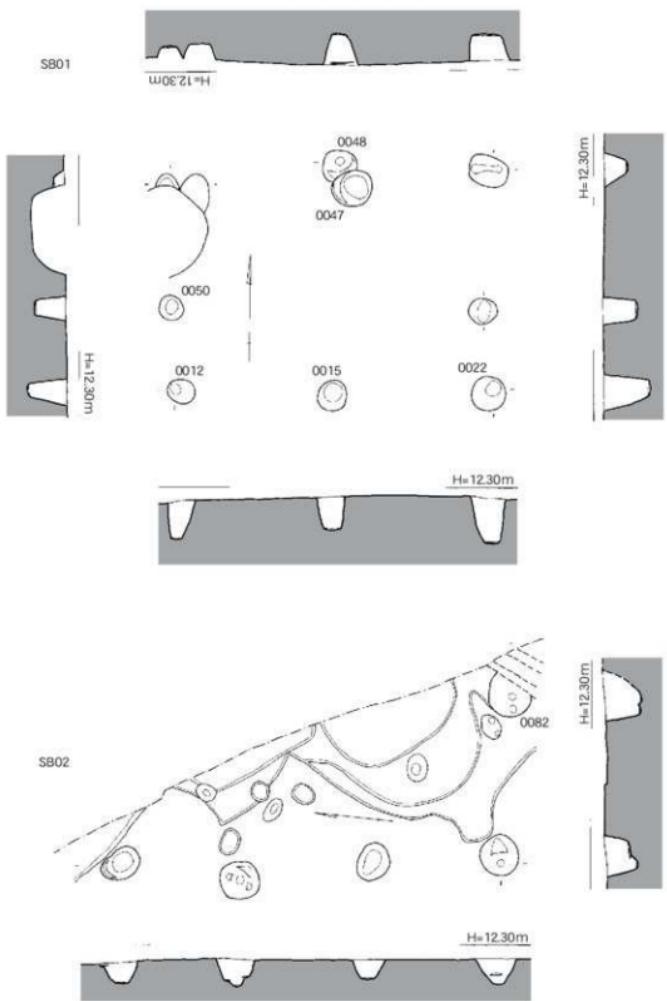


0 ~

第6図 SK 0079遺構・出土遺物実測図(1/40・1/3)

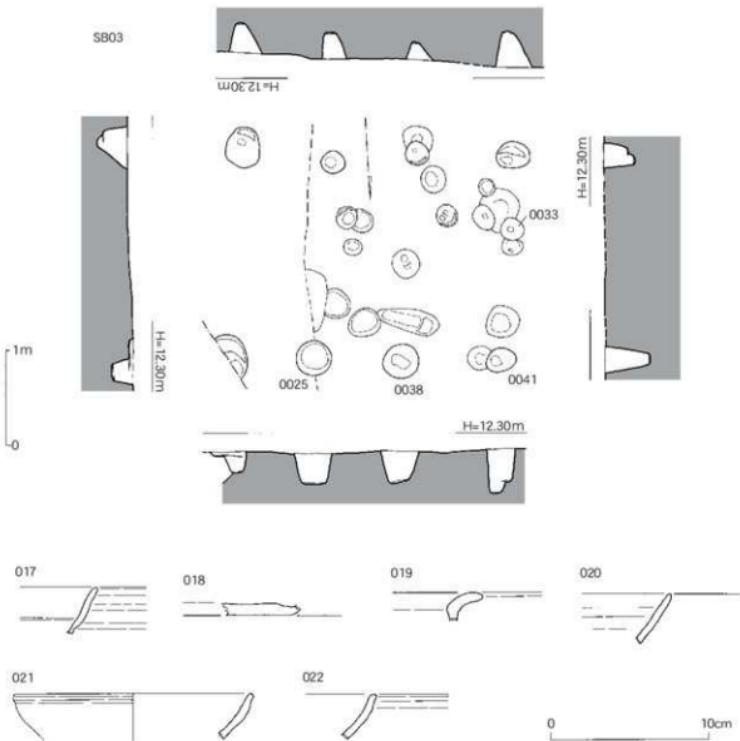


第7図 土坑遺構・遺物実測図 (SK 0051 1/30, SK 0071 1/20, 遺物 1/3)



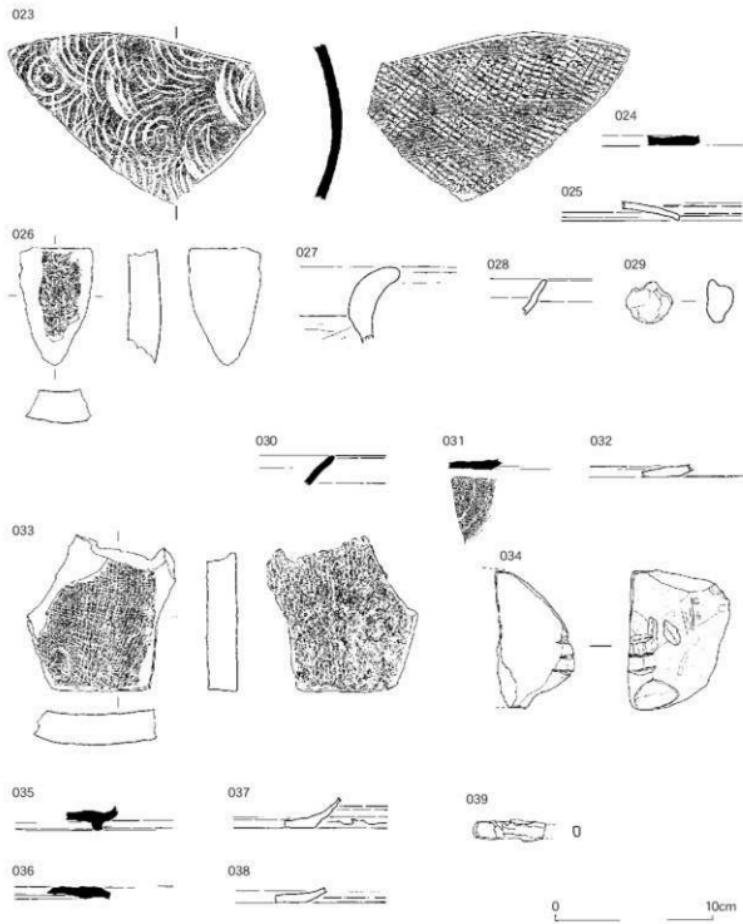
第8図 捜立柱建物遺構実測図(1/50)

0 1m



第9図 挖立柱建物遺構・遺物実測図(1/50・1/3)

掘り込みが見えるが、掘り下げ時には気づかなかったため、分けずに掘り下げた。出土遺物(第7図004~013)。土器小片が出土しているが、1点完形の土師壺が出土しており、土壤墓の可能性がある。004は須恵器壺口縁である。外面は灰色から黒褐色を呈し、薄く自然釉がかかる。内面は淡褐色で胎土は精良、焼成は良好である。内外面とも回転横ナデを施す。005は土師壺口縁である。色調は淡橙白色で白色砂をわずかに含む。焼成は軟質で内外面とも回転横ナデを施す。006は土師壺である。口径15.3cm、器高2.3cmを測る。内外面とも暗橙色で器表面に1mm以下の白色砂を多量に含む。焼成はやや軟質で底部はヘラ切り後軽く押し出している。内外面とも口縁部は回転横ナデで、内底部の一部に強いナデか弱いヘラ削りの痕跡が見られる。副葬品か。007は土師壺の底部か。外面赤橙色、内面淡褐白色を呈す。胎土は砂をほとんど含まず赤橙色の粒がわずかに見られる。焼成は良好で外底部は丁寧なヘラ削りで壺部は横ナデ。内面は全面に回転横ナデを施す。底部の約1/6のみ遺存。008は



第10図 その他の出土遺物 (1/3)

土師皿の底部である。色調は内外面とも暗橙色を呈し、胎土は細かく砂をほとんど含まないが、微小さな雲母片を多量に含む。焼成は良好。外底部切り離しは不明瞭であるがヘラ切りと思われ、切り離し後に丁寧にナデを施している。内面は静止ナデ。底部の一部分のみ遺存している。009は土師皿である。外面は被熱のため赤色化している。内面は橙色～褐色を呈す。胎土は精良で白色砂をわずかに含む程度で焼成はやや軟質である。底部は切り離し後ヘラケズリを施す。内面は回転横ナデで外周にミ

ガキを施す。底部の一部分のみ遺存。010～013は土師器甕である。010は復元口径28.2cmで色調は暗茶褐色を呈す。胎土は粗く2～3mmの白色砂を多く含む。外面は口縁端から2.5cmだけ丁寧な横ナデを施す。頸部は指押さえ、肩部は粗い縦方向のナデか。内面は口縁が横ハケ後横ナデ、胴部は口縁との境界部は横方向、他は縦方向のケズリである。011は推定口径約30cm前後を測る。色調は外面が煤のため黒色、内面は橙色を呈す。胎土はやや粗く1mm以下の白色砂を多く含む。焼成は良好で、調整は外面は口縁が粗い横ナデ、胴部はやや丁寧な縦方向のナデを施す。内面は口縁部が横ハケ後縦方向のナデで、胴部は強い斜めハケを施す。胴部外面にヘラの先端で点状の刻みを施している。012は口縁のみである。外面は煤のため黒色～暗褐色、内面は暗橙色を呈す。胎土に使用した粘土は粗く、1mm以下の白色砂を多く含む。焼成は良好。調整は外面が横ナデ、内面は口縁が横ナデで胴部は斜め方向のケズリである。013は復元口径19.8cmを測る。色調は外面が煤のため黒褐色、内面は暗褐色を呈す。胎土は粗く1mm以下の白色砂を少量含む。外面は口縁部に横ナデ、胴部に縦ハケ、内面は口縁に横ナデ、胴部は横方向のケズリを施す。

SK0071（第7図）調査区東縁中央部で検出した。東側が調査区外に伸びる。土坑もしくは溝状の遺構で、現状では東西に長く、長さ53cm、幅40cm、深さ23cmを測る。土師器甕の口縁と胴部、土師器坏底部と羽口片が出土した。出土遺物（014～016）。014は土師器高台付坏である。高台は痕跡のみで、外面は赤橙色～淡黄色、内面は黄白色を呈し胎土は細かく砂をほとんど含まない。底部切り離しは不明瞭である。外面坏部は横ナデ、内面は横ナデ後環状のミガキを施す。015・016は土師器甕である。015は口縁部のみで外面は煤のため黒色、内面は明茶褐色を呈す。胎土に1mm程の白色砂を多く含む。調整は内面が横ハケで、外面は口縁端が横ナデ、中央部は不明瞭であるが指オサエと思われ、頸部は板状の物で軽く押さえた痕跡が見られる。016は外面橙色～暗褐色、内面が黒褐色～暗茶褐色を呈し胎土は細かめだが1mm程の白色砂を多く含む。調整は口縁部が横ナデ、頸部は縦方向の短いミガキ、内面は口縁部が横ハケ、胴部は不明である。調整は全体的に粗い。遺構の時期は古代と思われる。

2) 挖立柱建物

3棟の掘立柱建物を検出した。軸方向は似ており同時期の建物と考えられる。

SB01（第8図）調査区の南側で検出した2間×2間の側柱建物である。主軸をN-89°-Eにとる。梁間は全長2.4m、桁行きは3.3mを測る。梁間中央の棟持ち柱が中央になく南側にずれる。棟持ち柱と南側の柱間が0.8～0.9m、その他の柱間は1.6～1.7mを測る。柱穴は円形もしくは梢円形で径26～41cm、深さ12～48cmを測る。出土遺物（第9図017～020）。017はSP0015出土の土師坏である。色調は淡橙色で、胎土はやや細かく少量の白色砂と赤褐色の粒を含む。焼成は軟質で全体に回転横ナデを施す。018はSP0020出土の土師坏の底部である。色調は橙色で胎土は粗め、白色砂をわずかに含む。焼成はやや軟質で外底部は切り離し後ヘラケズリを施す。内底の端部は板をあてて窪ませ、中央部は静止ナデを施す。底部の一部のみ遺存。019はSP0020出土の土師甕口縁部である。内面暗橙色、外面褐色で胎土はやや粗めて少量の白色砂と多量の微小な雲母片を含む。焼成はやや軟質で、調整は外面が粗い横ナデ、内面は口縁部が丁寧な横ナデで、胴部には斜め方向のケズリを施す。020はSP0050出土の土師器坏か椀の口縁である。色調は橙白色を呈し、胎土は細かく、白色砂をわずかに含む。焼成は軟質で内外面とも回転横ナデを施す。これらの出土遺物から時期は古代～中世と考えられる。

SB02（第8図）調査区北東部に位置する。遺構の東側半分が調査区外に伸び、現状では1間×3間の掘立柱建物である。主軸をN-6°-Wにとる。東西1.8m、南北4mを測り、柱間は1.3～1.8m

を測る。柱穴は円形もしくは楕円形で径38~48cm、深さ22~41cmを測る。出土遺物（第9図021・022）。021はSP0082出土の黒色A類焼である。復元口径は15.1cmを測る。色調は内面が黒色、外面は口縁端が黒色でその他は灰黄褐色を呈す。胎土は精良で胎土中に少量ながら赤褐色の粒が見られ、また器表面に微小な雲母片を含む。調整は内面が丁寧な横方向のミガキ、外面は丁寧な指オサエで全面に指紋の痕跡がみられる。022はほぼ021と同じで同一の土器である可能性があるが、021の外側調整が口縁下からすぐに指オサエなどに對し、022は口縁下1cmは横ナデでその下に指オサエを施すなど若干の違いが見られる。その他に近世陶磁の小片が出土したが、直上にその時期の掘り込みがあり、粉れ込みの可能性が高いと思われる。出土遺物から10~11世紀頃と思われる。

SB03（第9図）調査区南東部で検出した1間×3間の掘立柱建物である。主軸をN-89°-Eにとる。柱穴は円形もしくは楕円形を呈し径は約26~43cm、深さ17~46cmを測る。梁間は全長2.1m、桁行きは2.8mを測る。柱間は0.8m~1.0mを測る。西側梁間には棟持ち柱の可能性がある柱穴（0033）があるがSB01と同様に梁間中央には來ず、南側による。遺物はSP0026から古墳時代の可能性がある土師質の壺胴部片が1点と時期不明の土器片が2点出土した。

3) 柱穴状遺構 表1から見ると時期の判る柱穴のほとんどが古代から中世である。

4 他の遺構と遺物

第10図023~039は土坑や柱穴状遺構から出土した遺物である。023~029はSK0002から出土した。023は須恵器甕の胴部である。色調は外面が灰色、内面が暗灰色を呈し胎土は精良で白色砂をほとんど含まない。内面に青海波紋、外面に格子目のタタキを施す。024は須恵質の底部である。色調は暗青灰色で胎土はやや粗めで1mm程の白色砂を含む。外底部はヘラ切りで坏部は横ナデ、内面は回転横ナデ後中央部に静止ナデを施す。焼成は硬質である。025は土師質の坏蓋である。外面は橙色、内面が黄橙色で胎土は粘土粒子細かく白色砂を少量含む。外側調整は不明、内面は回転横ナデか。026は土師質の瓦片で丸瓦と思われる。四面は粗い布目压痕で、外面は不明瞭であるがナデと思われる。胎土は細かく少量の白色砂を含む。027は土師質甕口縁である。色調は外面が赤橙色、内面が暗橙色で胎土は粗く、1mm程の白色砂を多量に含む。調整は全体的に粗い。外面は横ナデ、内面は口縁部不明、胴部は横方向のヘラケズリを施す。028は土師坏の口縁である。色調は内外面とも茶褐色を呈し、胎土は精良で砂をほとんど含まない。焼成は軟質で、調整は全体に回転横ナデを施す。坏部の一部のみの遺存。029は鉄片である。12.5gを測る。030~034はSP0027から出土した。030は須恵器口縁部である。色調は灰色を呈し、胎土は精良で微小な雲母片を含む。焼成は良好。調整は内外面とも回転横ナデである。031は須恵器坏の底部である。色調は灰色を呈し、胎土は精良、焼成は良好である。底部切り離しはヘラ切りで、その後軽くハケを施す。内面と坏部外面は回転横ナデである。032は土師質の底部である。器種は坏と思われる。色調は淡褐色を呈し胎土の粒はやや粗めで微小な白色砂を含む。焼成はやや軟質。調整は内面は全面に回転横ナデ、外面はヘラ切りで坏部には横方向のヘラ削りを施す。033は平瓦の破片である。色調は橙色を呈し、軟質なため土師質と思われるが一部灰色の部分もあり、焼成不良の須恵器である可能性もある。胎土は粗く白色砂を多量に含む。遺存不良で、凹面は布目压痕が残るが凸面は不明である。034は砂岩製の砥石である。砥面は平坦面と幅2~5mm程の溝状を為すものがある。035は須恵器高台付坏である。SP0035から出土した。外面は自然釉がかっており、坏部から高台外面が暗灰色で、高台下面から底部が灰白色を呈す。胎土は精良で砂等を全く含まない。焼成は良好。調整は両面とも横ナデで非常に丁寧に施す。8世紀前半か。036は須恵器坏蓋片である。SP0061から出土した。色調は外面が黒褐色から青灰色、

内面が青灰色を呈す。胎土は紫色を呈し、細かな白色砂を多く含み焼成は良好である。調整は内面が回転横ナデ、外面は天井部が回転ヘラ削りで坏部は横ナデを施す。外面天井部は整形が粗く凹凸が激しい。037はSP0069出土の土師坏である。色調は赤橙色で胎土はやや粗く白色砂を少量含む。焼成は良好。底部切り離しはヘラ切りで、それ以外は両面とも回転横ナデであるが、内底部には端まで静止ナデを施す。坏部から底部にかけての一部のみの遺存。038はSP0052出土の土師質底部である。色調は内外面とも橙色を呈し胎土は精良、器表面に微小な雲母片を多く含む。焼成は良好で、外底部は回転ヘラ削りで、坏部はヘラ削り後ミガキ、内面はミガキを施す。底部から胴部にかけての一部のみの遺存。調整は非常に丁寧である。039はSP0004から出土した鉄製品である。刀子の柄か。現状で太さ1.1cm、長さ4.6cmを測る。断面に見られる柄は梢円形を呈す。040は黒曜石の石核である。

5 小結

遺物は縄文時代草創期の細石刃核、弥生時代後期の高坏等、古墳時代後期と思われる須恵器片や8世紀前半の須恵器高台付坏や縁軸小片、10～11世紀頃の黒色土器A・B類の椀や坏、土師甕などの遺物が出土した。中世以降と確定できる遺物は少なくSP0060で出土した糸切りの土師坏片とSP0054で出土した13～14世紀と思われる土師鍋口縁のみである。検出した遺構は弥生時代後期の溝と柱穴群、7世紀～8世紀の柱穴群、9世紀後半～10世紀頃の土坑と掘立柱建物群である。遺物が少なく時期が確定できない遺構が多い。しかしSD0078（弥生時代後期）の南北で柱穴群の密度が異なることから、SD0078は集落を区画する溝で、時期が不明の柱穴の多くは弥生時代後期であると考えている。その他には7世紀頃の須恵器なども出土しており2次調査と同時期の遺構がここまで広がることが判明した。9世紀後半～10世紀になると掘立柱建物群が建てられるようになる。SB02では時期の判明する遺物は出土していないが、建物の主軸は他の2棟と同じく南北であり、同時期の建物と考えられる。須恵器と土師器の坏が出土しているが、底部切り離しに糸切りを使用しているのはSP0060から出土した1点のみで、その他はヘラ切りか、底部切り離し後ヘラケズリを施している。また少量ではあるが瓦片が出土しており、一緒に出土した遺物には8世紀頃の坏蓋片がある。その他にはSK0051から縁軸の小片が出土しており、土師坏などでも整形・調整が丁寧な遺物が数点出土するなど古代の遺物には官衙的性格を示す物が多い。2次調査で出土した官衙的建物が近辺まで広がっていた可能性が考えられる。SD0078から出土した高坏と鉢は部分的に強く被熱していたが、古代の土器にも数点被熱して赤色化しているのがみられた。SK0071からは羽口片が出土し、またSK0051やSP0003、SP0047、SP0073からは時期不明の鉄滓が出土しており、鍛冶関係の遺構が存在したものと思われる。

北東側100mに位置する5次調査では古墳時代前期と後期の溝と古代の河川と集落が出土しており、古墳時代は水田、古代になると集落ができるものの中世には再び水田になったと推定されている。当調査区は弥生終末に集落化するがその後の遺物の出土状況は断続であり、5次調査と同様に集落化と水田化を繰り返したと考えられる。

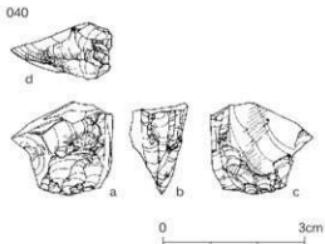
6 井相田C遺跡7次調査出土の細石刃核について（吉留秀敏）

出土石器

040は0034から出土した細石刃核である。遺構に伴うものではなく本来の包含層から遊離し混入した遺物と見られるが、表面の二次的な風化、摩滅やガジリ痕はなく、保存状態は良好である。完形であり、幅1.2cm、高さ1.9cm、長さ2.1cmを測る。石材は黒色弱透明の良質な黒曜石であり、僅かに微細な不純物を含み、自然面からは数ミリ単位の細かなあばた状の凹凸を有する円錐状の原石と推定される。石核の左側面(a)には自然面を、右側面(c)には分割時のボジ面となる主剥離面を残しており、この石核素材は円錐を分割した初段階の帽子状剥片を利用していることが分かる。石核成形は主剥離面側からの加圧による折断で細石刃核打面(d)を設け、その後下縁部を調整し、石核の整形をしている。石核調整はa面では入念に行われ、対してc面は浅く行われ主剥離面を大きく残している。なお打面からの石核調整はない。また、細石刃剥離に関わる打面調整は作業面側からのみ行われている。作業面(b)での細石刃剥離は向かって右側で階段状剥離が発生し、その後左側→中央の2面の細石刃剥離で終わっている。この段階では幅3mm前後の細石刃剥離が想定される。

この細石刃核の形態は「船底形」であるが、母核(コアブランク)を形成せず、剥片素材から直接的に整形していることや、石核調整が粗雑であることなど、いわゆる西海技法とは異なるものである。ただし、素材形状に対応した形態であることも留意すべきであり、こうした点では福岡市大原D遺跡細石刃段階II期B類や春日市門田遺跡細石刃核B類に共通している。わずか1点の単独資料であり、石器群組成などは不明であり限定しかねるが、縄文草創期前半段階であり、著者の細石刃段階後半期の3~4期に位置付けられよう。

池田祐司編2003「大原D遺跡群4」福岡市埋蔵文化財調査報告書第741集



第11図 細石刃核実測図(1/1)

遺構一覧

遺構番号	前面番号	面番号	性格	時代	遺物	備考
0001	6	1	柱穴状遺構	不明	上面小片 2点 (再生→古墳時代)	
0002	5	1	土坑	古墳	漆器 舞臺片、土鏡質瓦、須布葉片 (古代)、土鏡質口縁、上面片 12点、鉢片	
0003	5	1	柱穴状遺構	不明	鉢津 1点	
0004	5・6	1	柱穴状遺構	不明	上面片 2点 (不明)、鐵器 1点	
0005	6	1	柱穴状遺構	不明	上面片 4点 (不明)	
0006	6	1	柱穴状遺構	不明	上面片 1点 (不明)	
0007	6	1	柱穴状遺構	古墳~古代	上面片 3点 (古墳から古代)	
0008	6	1	柱穴状遺構	不明	上面片 1点 (不明)	
0009	6	1	柱穴状遺構	不明	遺物無し	
0010	6	1	柱穴状遺構	古墳時代後期	上面片 1点 (土鏡質か)	
0011	6	1	柱穴状遺構	古墳時代後期	須布葉小片 1点、土鏡環口縁 (古代か)、上面片 8点 (古墳時代以後)	
0012	6	1	柱穴状遺構	不明	上面片 1点 (不明)	
0013	6	1	柱穴状遺構	古墳時代後期	上面片 2点 (古墳時代か)	SBO1
0014	6	1	柱穴状遺構	古代~中世	須布葉片、土鏡環片、上面片	
0015	6	1	柱穴状遺構	古墳~中世	上面片 2点 (不明)	SBO1
0016	6	1	柱穴状遺構	不明	上面片 2点	
0017	6	1	柱穴状遺構	不明	上面片 2点 (再生)、鐵器 1点は焼熱で赤色化)	
0018	6	1	柱穴状遺構	不明	須布葉 (不明)、上面片 (不明)	
0019	6	1	柱穴状遺構	不明	上面片 (不明)	
0020	6	1	柱穴状遺構	古代~中世	上面片 5点、土鏡環片 (切り離し不規)、土鏡環口縁片 (古代~中世か)	SBO1
0021	6	1	柱穴状遺構	古代~中世	上面片 (絞り) 1点	
0022	6	1	柱穴状遺構	不明	上面片 2点 (不明)	
0023	6	1	柱穴状遺構	不明	上面片 (中世?)、土鏡質口縁 (古墳か)	
0024	6	1	柱穴状遺構	古墳~中世	須布葉 (中世?)、土鏡質口縁 (古墳か)	
0025	5	1	柱穴状遺構	不明	遺物無し	SBO3
0026	5	1	柱穴状遺構	古墳~中世	上面片 2点 (不明)、「土鏡質葉刺鋼」 (古墳)	SBO3
0027	5	1	包含層	古代~中世	須布葉 (研磨)、土鏡質瓦、土鏡环片 (角切り)、上面片小片 13点	
0028	6	1	柱穴状遺構	不明	上面片 1点	
0029	5	1	柱穴状遺構	不明	上面片 1点	
0030	5	1	柱穴状遺構	不明	遺物無し	
0031	6	1	柱穴状遺構	再生	上面片 (研磨?) 2点 (再生か)	SBO1
0032	6	1	柱穴状遺構	古代~中世	「土鏡質瓦 (外机盤底)」 (再生かナナ子) 古代か、上面片 2点 (不明)	
0033	5	1	柱穴状遺構	古代~中世		
0034	4	1	柱穴状遺構	古代~中世	須布葉片 (6C代)、上面片 4点 (不明)、黒縫石マイクロコア (右肩部)	
0035				SC 前手	須布葉片 (右肩部) (8世紀前半)	
0036				古墳時代後期	銘台片 (再生→古墳時代)、銘片 (再生→古墳時代)、上面片 4点 (不明)	
0037	5	1	溝状遺構	不明	上面片 1点 (不明)	
0038	5	1	柱穴状遺構	不明	遺物無し	
0039	5	1	柱穴状遺構	不明	上面片 2点 (不明)	
0040	5	1	柱穴状遺構	再生→古墳時代	鐵片 1点 (再生→古墳時代)	
0041	5	1	柱穴状遺構	6世紀前後	土鏡質口縁 (6世紀前後)	
0042	5	1	柱穴状遺構	古代~中世	上面片 (内側) 回転輪郭ナギ (土鏡環片) 1点 (古代~中世)	
0043	5	1	柱穴状遺構	不明	上面片 2点 (不明)	
0044	6	1	柱穴状遺構	不明	上面片 1点 (古墳時代)	
0045	6	1	柱穴状遺構	古代後半	黑色小片、土鏡質口縁、土鏡質斜片 (不明)	
0046	6	1	柱穴状遺構	不明	上面片 1点 (不明)	
0047	6	1	柱穴状遺構	不明	鉢津	
0048	6	1	柱穴状遺構	不明	上面片 2点 (不明)	
0049	6	1	柱穴状遺構	古代~中世	上面片 (土鏡環片) 1点	SBO1
0050	6	1	柱穴状遺構	古代~中世	上面片 (土鏡環片)	SBO1
0051	6	1	土坑		須布葉片 (研磨片)、土鏡質器 (ヘラ切り)、土鏡質斜片 (研磨はヘラ切りもしくはナギ)、土鏡質口縁、鉢津、瓦片、上面片	
0052	4	1	柱穴状遺構	古墳後期	土鏡質口縁 (古墳後期)	
0053	4	1	柱穴状遺構	不明	上面片 3点 (不明)	
0054	4	1	柱穴状遺構	13～14世紀	土鏡質口縁 (13～14世紀)	
0055	4	1	柱穴状遺構	不明	上面片 1点 (不明)	
0056	4	1	柱穴状遺構	不明	寶小片 (不明)	
0057	4	1	柱穴状遺構	古代	黑色小片 (研磨片)	
0058	4	1	柱穴状遺構	古代~中世	寶小片 (不明)、「土鏡片 (研磨)	
0059	4	1	柱穴状遺構	不明	土鏡片 (研磨) (研磨)	
0060	4	1	柱穴状遺構	不明	土鏡片 (研磨) (研磨)	
0061	4	1	柱穴状遺構	7世紀後半	須布葉片 (研磨) (7世紀後半)	
0062	4	1	柱穴状遺構	古墳時代後期	鐵片 (再生→古墳時代)	
0063	4	1	柱穴状遺構	古代か	高环彌撒	
0064	4	1	柱穴状遺構	不明	上面片 3点 (不明)	
0065	4	1	柱穴状遺構	不明	上面片 1点 (不明)	
0066	4	1	柱穴状遺構	不明	上面片 2点 (不明)	
0067	4	1	柱穴状遺構	不明	上面片 1点 (不明)	
0068	4	1	柱穴状遺構	不明	上面片 1点 (不明)	
0069	4	1	柱穴状遺構	古代後半	土鏡片 (研磨はヘラ切りかへラ削り)、上面片	
0070	3	1	柱穴状遺構	不明	遺物無し	
0071	3	1	埴らしき土坑	古代か	寶口縁、羽口片、土鏡片 (研磨) (研磨)	
0072	3	1	柱穴状遺構		上面片 1点 (不明)、再生焼熱のため赤色化	
0073	3	1	柱穴状遺構	古代~中世	鉢津、土鏡片 (古代~中世)、須布葉片 (片 (古墳~古代))	
0074	3	1	柱穴状遺構	再生時代後期	上面片 (再生時代後期~再生後)、土鏡片 1点 (不明)	
0075	3	1	柱穴状遺構	不明	土鏡片 (研磨) (研磨) (研磨)	
0076	3	1	柱穴状遺構	古代~中世	土鏡片 (研磨) (研磨) (研磨)	
0077	3	1	柱穴状遺構	6世紀後期	須布葉片 (研磨)	
0078	3	1	埴らしき土坑	再生時代後期	高环彌撒 (再生時代後期)、鉢 (再生時代後期)	
0079	3	1	土坑	貯藏穴	上面 内壁 (研磨) (研磨)、上面片	
0080	1	1	土坑	不明	遺物無し	
0081	2	1	柱穴状遺構	不明	上面片 (研磨のため赤色化) 不明	
0082	2	1	柱穴状遺構	不明	土鏡質口縁、須布葉片	
0083	2	1	柱穴状遺構	古墳時代後期	須布葉片 (研磨) (研磨時代後期)	SBO2
0084	2	1	柱穴状遺構	不明	上面片 1点 (不明)	
0085	6	1	柱穴状遺構	不明	上面片 1点 (不明)	



1. 調査区全景（北西から）



2. 調査区中央部（西から）

図版 2



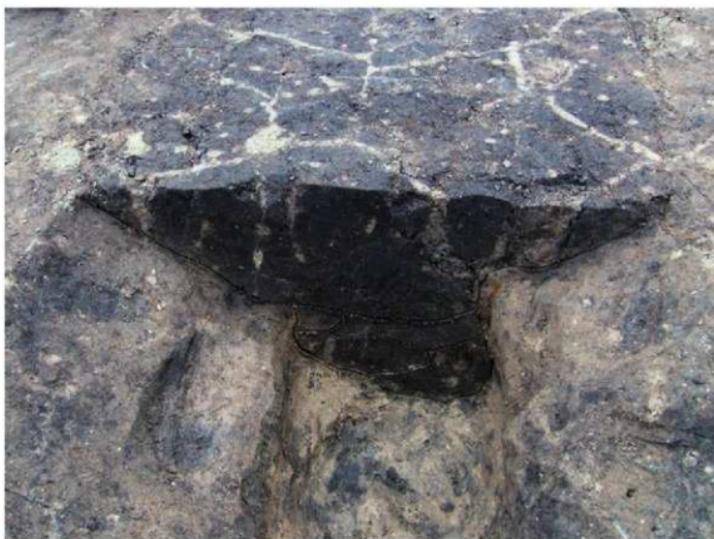
1. 調査区南半部（南から）



2. 遺構検出状況（北西から）



1. SD0078 (西から)



2. SD0078 土層 (西から)

図版 4



1. SD0078 遺物出土状況（西から）



2. SK0051（南から）



1. SK 0079 土層（東から）



2. SK 0079 土層部分（東から）

図版 6



1. SK 0002 (西から)



2. 拡張区調査風景 (西から)



1. 調査面下堆積状況

002



040



001



2. 遺物写真

報告書抄録

書名 井相田C遺跡6
副書名 井相田C遺跡第7次調査報告
巻次 6
シリーズ名 福岡市埋蔵文化財報告書 シリーズ番号 975集
編集著者 屋山洋 編集機関 福岡市教育委員会 発行年月日 2008年3月31日
郵便番号 810-8621 住所 福岡市中央区天神1丁目8番1号
電話番号 092-711-4667
所収遺跡名 井相田C遺跡第7次
ふくおかげんふくおかしさかたくいそうだ
所在地 福岡県福岡市博多区井相田2丁目11番3
コ一ド 市町村 40130 遺跡番号 022630
北緯 33°32'52" 東経 130°28'30"
調査期間 20060417~20060531 調査面積 438.9m²
調査原因 共同住宅の建設 種別 集落
主な時代と遺構・遺物
弥生後期-溝(後期土器)-柱穴(土器)
古代～中世 土坑(土師挽环、綠釉片) - 挖立柱建物(土師皿、黒色土器挽、土師器甕)
特記事項 SK0051から綠釉小片が出土した。

福岡市埋蔵文化財調査報告書975集

井相田C遺跡6

-第7次調査報告-

2008年(平成20年)3月31日

発行 福岡市教育委員会
福岡市中央区天神1丁目8-1

印刷 株式会社 伸和
福岡市東区社領2-7-4